

第21回サマーセミナー報告 (主催者側から)

小宮 康治

東京光学機械(株)技術本部 〒174 東京都板橋区蓮沼町 75-1

第21回サマーセミナーが終わった。大過なく終えることができ実行委員一同ほっとしている。これは何といても講師の方々、受講者の方々のご協力の賜であり、実行委員を代表して皆様にお礼の言葉を申し上げたい。本年は主催者側からの報告を執筆して欲しいと編集委員会より依頼があったので、拙筆ながら報告する次第である。

今回のサマーセミナーは昨年の実行委員4名に、新委員4名を加えて運営された。まずその経過を報告するとともに感じたことをつけ加えたい。昨年12月に準備段階として検討会がもたれ、企画委員、実行委員の人選およびテーマの方向付け等につきフリーディスカッションをした。実行委員長(青木貞雄氏、筑波大)についてもここで確認され(実際には第20回サマーセミナー終了時点で雰囲気的に決まっていた)、1月以降の概略スケジュールを決めた。

テーマは意外にすんなりと決定した。昨年は企画委員会でも多数のテーマが提案され、委員長(黒田和男氏、東大生研)は四苦八苦であったが、本年は2回の企画会議でテーマおよびプログラム構成の概略が固まった。お陰で2月中旬からは実作業段階に入ることができた。講師の決定・依頼、ビラの作成・手配に始まり、テキストの校正を経て開催に至るまでに計4回の実行委員会がもたれた。総じて大変スムーズに作業が進んだとあって良いだろう。これは今回の実行委員中4名が昨年のサマーセミナーを経験している、早目早目に仕事を進めることができたことによるものと思われる。昨年は、一昨年のサマーセミナーが大阪地方で開催され、企画から実行まですべてが関西方面の方々を中心に行なわれたため、実行委員のうち経験者は1人のみということになり、何をやるにも不慣れが伴い、委員長は大変苦労されたのであった。実行委員はできる限り有経験者を加えるようにし、メンバーの負担を軽減するのが望ましいと思う。テーマの決定については難しい面が多いが、企画委員会の段階で有力なメンバーを擁し、早く意思統一ができるよう配慮することが大切であろうと考える。

講演内容については参加者の報告に譲ることにし、ここでは参加者からいただいたアンケートの集計結果の主なものを報告させていただくことにする(図1~図4参照)。

セミナーを知ったのは学会誌からと職場内の連絡等というのが大半を占めている(本年はダイレクトメール

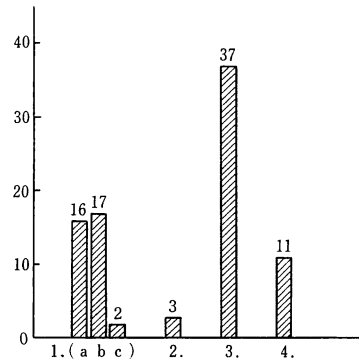


図1 セミナーを知ったのは?

1. 学会誌 (a. 応物, b. 光学, c. 光学技術コンタクト), 2. 講演会 (応物), 3. 職場内の連絡等, 4. その他 (日経メカニカル, 幹事, 講師等, センサー技術, O & E 誌)

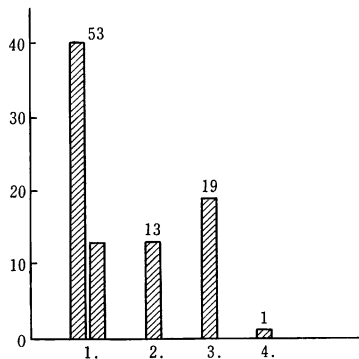


図2 参加理由

1. 自分の仕事に役立つ, 今後仕事に関係するテーマである, 2. 仕事と直接関係はないが, 興味があったので, 3. 職場の上司の勧めで, 4. その他 (講師として)

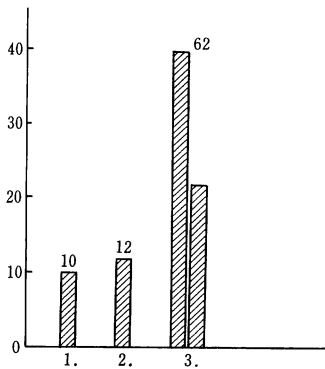


図3 参加回数
1. 1回, 2. 2回以上, 3. なし

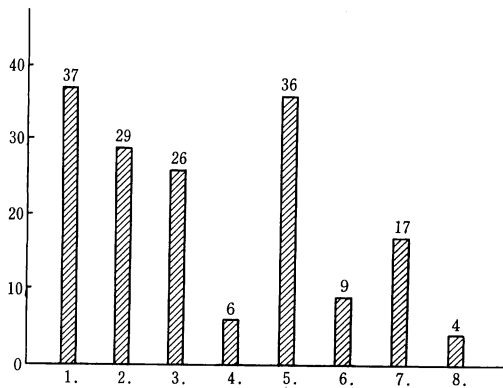


図4 興味深かった講演
1. 半導体レーザーの基礎, 2. 光学系における半導体レーザーの特性, 3. 半導体レーザーの戻り誘起雑音, 4. 半導体レーザーの光計測への応用, 5. 光ディスク技術, 6. レーザープリンター, 7. 光電子集積回路(OEIC)の概念, 8. 光双安定素子

は出さなかった)。参加理由はテーマの性格を反映してか、仕事に関連してというのが最も多い。興味深かった

講演もこれに対応して、基礎的内容に関係した講演に関心があったことが現われている。その他の結果は割愛するが、時間配分、会場設備等についてはとくに問題なかったようである。セミナーについてのご意見や、今後希望するテーマについては実にさまざまな内容を含んでおり、次回以降の有効なデータとしたい。

昨年、今年と引き続いてパネルディスカッションを設けなかった。実行委員会の検討の中で行なうかどうか話には出たが、深く議論しあうこともなく(今年はとくに)昨年どおりとなってしまった。パネルディスカッションに限らず最近のサマーセミナーは少し工夫が足りなくなっているような気がする。以前の記録を見ると、エクサカーションあり、見学会あり、現地講演会あり、グループ討議ありなどいろいろ工夫があったようである。だんだんと形式が簡略化、画一化してきてセミナー屋の企画するセミナーじみてきたような気がする。先に、本年はスムーズに作業が進んだと報告したが、果たして本当にこれで良かったのだろうか。疑問である。筆者自身実行委員を担当してきたわけであり、当事者として真剣に反省してみなければならない。

来年は国際光学会議が札幌で開かれるためサマーセミナーはお休みである。国際光学会議を成功させることはもちろんのこと、今後もサマーセミナーを発展させるため、関係する人々すべての英知と情熱を期待したい。

本年のサマーセミナーは台風5号の襲来に気をもみながらも幸い無事に終了できた。光学懇話会の関係者の方々、応用物理学会事務局の組橋氏に、実行委員会を代表してお礼の言葉を申し上げたい。簡単であるが、これをもって第21回サマーセミナーの報告とする。

(1983年9月12日受理)

昭和58年度夏期生理光学研究会報告

内 川 恵 二

東京工業大学総合理工学研究科 〒227 横浜市緑区長津田町 4259

毎年恒例の生理光学夏の研究会が光学懇話会・生理光学研究グループの主催により、7月28日から30日までの3日間、岐阜県の中津川研修センターで開催された。

この研究会は視覚系に関心のある研究者が理工学、心理学、医学、生理学等のさまざまな分野から集まり一堂

に会し、日頃の研究成果や疑問について納得のいくまで討論することを目的としたもので、例年夏と冬の2回、2泊3日で行なわれている。視覚系は典型的な学際領域の研究分野であるため、異なった領域の研究者が交流し、情報交換できる場を持つことは大変貴重なことであ